

平成31年4月1日

平成30年度 創形美術学校
項目別・自己評価表

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科／ビジュアルデザイン科／研究科

目 次

1	1. 学校の教育目標
	2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
	3. 評価項目の達成及び取組状況
	(1) 教育理念・目標
2	(2) 学校運営
	(3) 教育活動
3	(4) 学修成果
	(5) 学生支援
4	(6) 教育環境
5	(7) 学生募集
	(8) 財務
6	(9) 法令遵守
	(10) 社会貢献・地域貢献
7	(11) 国際交流
8	4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
	(1) 教育評価
	(2) 財務評価
	(3) 一般的評価
	5. 学校関係者評価委員の評価結果について

1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 学生の目標設定の徹底、及び全教員の教育方針の共有と統一。

また様々な事情による学生の支援を制度として確立。

(2) 卒業後のモデル像の明確化と就職希望学生の就職の実現

(3) 社会貢献・地域貢献活動の推進

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○ 学校の特色は示されているか	④	3	2	1
○ 学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
○ 学校の理念・教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
○ 各学科の教育目標、育成人材像が方向づけられているか	④	3	2	1

〈課題〉

変化の激しい業界に対応した人材育成において、カリキュラムを常に検討、改定が必要。

学生がより積極的に、より高い目標に向かって自発的に努力する力が弱い。

留学生が急増したことによる大学院進学倍率高騰を受け、その対策が必要。

〈今後の改善方策〉

学生が現状に満足せず、より高い目標に向かって取り組む事を促すシステムの策定。

研究科の効果的、効率的なカリキュラムの整備。

特に美術進学コースにおいて大学院に特化した進学の充実が求められる。

〈特記事項〉

各学年毎の教育到達目標を明文化し、更にその目標に向かって学生が各自設定した計画の提出を行う。

(2) 学校運営

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 意思決定システムは整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

次年度におけるカリキュラム策定期間の前倒し。

〈今後の改善方策〉

アトリエの快適化、及び効率化。映像設備の充実と活用。学内における IT 化への環境整備と推進。

〈特記事項〉

特記事項無し

(3) 教育活動

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 授業評価の実施・評価体制はあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

基礎課程教育と専門課程のバランスを考え、カリキュラム編成の見直し。
外部関係者からの評価をより受けられるように強化すること。

〈今後の改善方策〉

キャリア教育の更なる充実を図り、指導を強化する。

〈特記事項〉

成績評価、単位認定、進級、卒業判定基準の詳細を明文化、及び周知の徹底。
産業界、行政との連携を強化。

(4) 学修成果

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 就職率を向上させるための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
○ 退学率の低減するための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

〈課 題〉

学生の就職の意識を向上させる強化が必要。
キャリア教育の時間を増加させるも、就職に対する意識が低い学生が多い。

〈今後の改善方策〉

就職関連授業の充実と大学院進学希望学生(研究科)に対応した授業の充実。
1年次から就職意識を高めるカリキュラムを構築。卒業生の近況情報の把握。

〈特記事項〉

様々な事情による学生の特別サポート制度の導入。
卒業後のモデル像の明確化と就職希望学生の就職の実現。活躍する卒業生の仕事に触れるコーナーの拡大。

(5) 学生支援

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1

○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○ 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1

〈課 題〉

作家やフリーランスを目指す学生の活動支援。

〈今後の改善方策〉

業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援を強化、改善していく。

〈特記事項〉

個々に対応した学生支援を図る。ボランティア活動、コンクール出品の支援、及び環境の整備。

「緊急支援制度」など経済的に就学困難な学生を支援する制度を充実させる。

(6) 教育環境

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

〈課 題〉

校舎における大型修繕へ向けての具体的計画立案が必要。

図書閲覧の機会の拡大が必要。

〈今後の改善方策〉

中、長期整備計画を作成、教育施設、設備の充実を図る。

大型修繕に備えての資金確保の計画の推進。

ITセキュリティの推進。

各専攻のアトリエに図書棚を配置。

〈特記事項〉

海外研修生の支援体制の強化。

学校備品を新しい物へと入替。

全館 Wi-fi 設備、サーバーを一新。

学生ホールの充実。

版画工房の整備

(7) 学生募集

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 学生募集活動は、適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学納金は妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

既卒者に対する募集活動と教育成果のアピール強化。

高校生へ向けた学生募集対策の強化が必要。

奨学金制度の見直しが必要。

〈今後の改善方策〉

広報宣伝費の予算強化と戦略の強化。SNSを含めたメディア展開の強化。既卒者へ向けた広報活動の強化。

留学生に対する厳正な入試テストの実施。

〈特記事項〉

オープンキャンパスの改革による来校促進活動の活性化。

SEM対策強化による高校生、保護者、高校教員の認知度の向上。また関東近郊区域の認知度の向上。

2020年度入学次より奨学金制度の改定。

留学生入試テストの強化。日本語の聞き取りテスト、筆記テスト、面接を行う。

(8) 財務

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

大型修繕に備えた資金確保。

既卒者等 19 歳以上の入学生の増加を図る。

不採算事業の見直し。

〈今後の改善方策〉

事務業務における最新型コンピュータの導入。

社会人教室の組織変更と立て直し。

〈特記事項〉

各年度毎の詳細な予算建てと計画、その収支の精査。
学園内における各学校の独立採算制度への移行。

(9) 法令遵守

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自己評価結果を公開しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

学校内においては、自己点検は行っているが、外部関係者による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

外部関係者による点検を図る。

〈特記事項〉

特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の
受託等を積極的に実施しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

社会貢献活動・地域貢献活動の成果における広報活動の強化を図る。

〈今後の改善方策〉

2019年(東アジア文化都市2019豊島)、2020年(オリンピック・パラリンピック)の豊島区文化プロジェクトと相互協力による社会貢献の推進。

〈特記事項〉

豊島区、池袋自治会、回遊美術館などと連携を図り、地域支援活動、アート活動、ボランティア活動などに対する高評価を得ている。

株式会社ファーストリテイリング、スターバックスコーヒージャパンなどと連携し、社会貢献、地域貢献を実施。

豊島区の「国際アート・カルチャー特命大使」として活動、企画提案を行い、また「東アジア文化都市2019 豊島」への参加する。

ボランティア活動の奨励、支援、及び環境の整備。

社会人向けの講座の開設、版画工房の貸出など積極的な実施。

(11) 国際交流

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

〈課題〉

増加する留学生に向けた学習に対する体制強化。

〈今後の改善方策〉

留学生に対する厳正な入試テストの実施と日本の美術学校の正しい情報提供。

卒業後の留学生と連絡を密にし、在学留学生への情報提供、及び支援を計る。

〈特記事項〉

海外研修生の支援体制の強化。

留学生サポート担当による生活指導、及びサポートの充実。

研修制度の告知強化と情報提供の充実。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

本校は、美術・デザインの造形教育アカデミーとして創立49年を迎え、歴史と伝統を培い、数多くの優れた人材を輩出してきた。また社会人としての自覚・責任を持つと共に柔軟性と応用力を兼ね備えた人間形成にも努めている。

本校では、時代のニーズに沿ったカリキュラムを組み、専門的技術と知識の効果的な指導方法、国際的な視点に立った教育を目指し、日々改良に努め、更なる教育内容の充実と研鑽を図っている。また、2018年度に立てられた5ヶ年計画に則って、更なる教育の向上を目指している。今後は外部からの意見を取り入れ、これらの結果の積極的な情報開示と、美術・デザイン業界における教育の重要性を考えていかなければならない。

(2) 財務評価

平成30年度の学生募集に於いて前年度より大幅な入学者増加にあり、更に平成31年度の入学者も同様に目標数を超えた増加となる。宣伝広報活動の強化が具体的に成果として見え、また同時に経費削減の推進により余裕ある学校運営が行える体制が整う。今後は更なる教育環境の充実を図る。

(3) 一般的評価

平成30年度は前年度に引き続き学内設備・機器の改修、強化を図り、その成果として教育環境の向上が図られ、また宣伝広報強化による成果が目に見える形で現れ、財務関係が大幅に改善された。教育指針の明文化と特別サポート制度、経済的に就学困難な学生を支援する制度の導入、卒業後のモデル像の明確化といった施策により、学生それぞれが明確な目標に向かい、学生生活の安心と充実、教育の成果が見込まれる。

次年度へ向けての課題としては、今年度の結果に奢ることなく計画目標の達成に努力すること。時代の先を見据えながら更なる教育環境の快適化と効率を推進していくことが重要である。行政と連携を図り、アート・カルチャーなどのプロジェクト参加を通して社会貢献、地域貢献の強化を推進。より社会貢献を強く意識出来るクリエイターの育成に努める。なお、学生ニーズ及びその時代に合わせたカリキュラム編成は、常に改善を図り、早めの対策を引き続き推し進めていくことが肝要である。

5. 学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、創形美術学校評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 平成 31 年 3 月 31 日

高澤学園 理事長 三友喜久夫

高澤学園 理事 創形美術学校 学校長 山本哲次

高澤学園 理事 創形美術学校 主任 工藤礼二郎

創形美術学校 事務長補佐 田村和稔

前高澤学園 理事 前創形美術学校 学校長 飯田淳

豊島区区議会議員 山口菊子